

## 別記様式（第4条関係）

## 会 議 録

会 議 の 名 称	宍粟市水道事業経営審議会	
開 催 日 時	令和3年12月3日（金）14時00分から16時00分まで	
開 催 場 所	市役所北庁舎4階 401会議室	
議 長（会 長） 氏 名	瓦田 沙季（県立大学教授）	
委 員 氏 名	(出席者) 城内 久和 米田 正富 佐古井 武男 中岡 幸 松本 則夫 岸本 京子 長野 委久子	(欠席者) なし
事 務 局 氏 名	太中豊和、祐谷佳孝、坂井高誉、宮本雅博、小池信仁、大谷広宜	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) 令和2年度決算状況について報告	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等		

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
会長	1 開会 2 会長あいさつ 3 審議事項 1) 令和2年度決算状況報告について 事務局より決算状況について報告 令和2年度はコロナの影響で決算状況が悪化することを心配していましたが、影響は少なかったようで安心しました。前年度との比較資料では、増減率も追記した方が資料として分かりやすいと思います。 収益的支出の中で修繕費が大きく増加していますが、特に理由はありますか。
事務局	最近の修繕料は3千万円から4千万円で推移しており、令和2年度の状況が通常で、令和元年度が少なかったということです。
会長	分かりました。修繕料が急に増加したのであれば、その要因を分析する必要があります。 委託料が増加していますが、内容に変更があったのですか。
事務局	施設の点検回数を減らしたりしましたが、委託内容に大きな変更はありません。しかし、3年契約の更新を行ったところ、人件費の高騰によって契約額が高騰しました。
会長	契約方法は入札ですか。
事務局	一般競争入札によって契約しましたが、応札は1件のみでした。
会長	応札が1件では、競争原理が働かないので、好ましくない状況にあると思いますが、他の自治体でも、同じように応札する企業が少なく、苦慮されているようです。
事務局	新規参入にあたっては、企業側も新たな人員が必要であったりすることから、応札が少ないのではと推測しています。
会長	価格競争が難しい分、委託内容について、しっかりと業務検査を行ってほしいです。
事務局	分かりました。
委員	施設管理について市内には何社くらいの業者があるのですか。
事務局	市内には業者がありませんので、市外の業者と契約しています。
委員	応札が1社しかないということは、入札に係る周知が足りなかったという事はないですか。
事務局	入札の情報については公告を行っています。業者も、複数の市の公告をチェックしているようですが、応札者の増加には繋がっていないのが現状です。 委託については、直営で業務を行った場合との比較検証を行っていく必要があると考えています。

会長	<p>委託によるコスト削減が達成できなければ、委託する必要がなくなりますので、比較検証は是非行ってもらいたいと思います。</p> <p>また、委託先についても、大阪では大阪広域水道企業団に委託しているところもあります。近隣では西播磨水道企業団もありますので、民間に限らずに委託の方法を検討するのが良いのではと思います。</p>
委員	<p>企業債の借入額が多いことが気になります。何か変更があったのですか。</p>
事務局	<p>令和2年度は建設改良費が多かったことから、企業債の借入額も多くなっています。</p>
委員	<p>借入額の増加は利息負担につながるので、少なくしていく方が良いと思います。</p>
事務局	<p>現在の経営と資金の状況から、建設改良の財源を企業債に頼っているのが現状です。</p>
会長	<p>新規借り入れの利率の0.08%と低金利となっています。何十年も使用する施設の建設改良費を単年度で負担するのではなく、起債を借り入れることによって、世代間の負担を平準化するという合理的な理由もあります。</p>
委員	<p>人口減少で使用者が減少していくものと思いますが、その対策はどのように考えていますか。</p>
事務局	<p>将来的には施設の統廃合やダウンサイジングを実施していく予定としています。</p>
委員	<p>現在の施設規模は使用の状況からは大きすぎるということはないですか。</p>
事務局	<p>人口は減少していますが、盆や寒波などの影響で水需要が変化することもあり、最大使用量からすると施設規模は適正であると考えています。</p>
委員	<p>寒波によって水需要が変わるのですか。</p>
事務局	<p>上寺浄水場では施設能力12,000tに対し、日平均7,000t程度の水を配水していますが、令和3年1月の寒波の際には、10,000tを配水しており、施設能力を超えて断水する危険がありました。この経験から、施設の廃止については慎重に検討していきたいと思います。</p>
会長	<p>現在の人口は水道ビジョンの計画よりも下回っていますか。</p>
事務局	<p>人口としては予測通りに減少していますが、有収水量は減少せずに、ほぼ横ばいの状況となっています。山崎地区における新規加入者の増加がその要因と考えていますが、市内北部から南部に転居される場合が多く、いずれは有収水量も減少していくものと予測しています。</p>
委員	<p>平成30年度の提言書の中でもあったが、市の税金の使い道として、水道使用者へ補助する考えから、一般会計から水道会計への補てんについては実現が難しいですか。</p>
事務局	<p>一般会計の財源不足もあり、実現には至っていません。</p>

委員	人口減少は宍粟だけではなく、全国的な問題だと思いますが、他の団体はどのように対応されているのでしょうか。調査したりしていますか。
事務局	水道協会などに積極的に参加することで、情報取得に努めています。人口減少に対する国の方針としては、水道事業の広域化を推進しています。兵庫県では今のところ、広域化に向けた具体的な動きはありません。
会長	大阪など、広域化しているところもありますが、それにより、職員の人員不足は解消できますが、水道料金の統一には至っていないのが現状です。
委員	決算書の預金残高をみると、まだ少し余裕があるように思います。料金改定を行わずに済むのではないですか。
事務局	現金残高はありますが、未収金も考慮すると留保資金残高としては8億円程度となりました。留保資金は毎年減少しており、料金改定の必要性には変わりがないと考えています。
委員	突発的な事故や、大きな修繕が発生すると資金が不足するおそれもありますが、今後の損益の見込みはどうようになっていきますか。
事務局	現在の料金でいくと、人口減少もあり、毎年赤字額が増加する見込みです。
委員	人件費が減少していますが、配置換えによるものですか。
事務局	1名の人員削減によるものです。
委員	人員削減も大事ですか、技術継承の面で大丈夫ですか。
事務局	令和元年度は平成30年度の災害復旧のために、市民局の人員を増やしていたために、令和2年度で減少したものです。 技術継承の面では、退職した職員を再任用職員として採用し、工事検査等、特に技術継承が必要となる業務に当たっています。
	4 その他 上寺浄水場を見学
	5 閉会